

1984年8月20日 第三種郵便物認可
KSK 通巻番号 3383 号

2019年3月10日発行
毎月5回 (5・10・15・20・25日)

KSK 《頸損だより》

2019 春号 (No.149) 2019. 3. 10

特集:大阪頸損&京都頸損 合同交流会の歴史/Part2



大阪頸髄損傷者連絡会

ホームページ: <http://okeison.com/>

お問い合わせ: info@okeison.com

もくじ

- 1…表紙
- 2…もくじ&けいそんなう【中塔 昌宏】
- 3…特集：大阪頸損&京都頸損合同交流会の歴史 Part2
【平野 功】【畑本 卓成】 【編集：岩本 泰嘉】
- 28…大阪・京都頸損連合同交流会
【赤尾 広明】【上田 修司】【木村 善男】
- 31…プレス to ボイス 連載 26 回【米田 進一】【吉田 憲司】【井上 歩】
- 36…新年会報告【島本 義信】【杉本 真一】
2018 年度寄付金報告
- 40…頸損連インターネット NEWS 【島本 義信】
- 42…入会案内
- 43…入会申込書
- 44…裏表紙、活動日誌、活動予定



けいそんなう

去年は大きな地震や台風にみまわれましたが、みなさんの所は大丈夫だったでしょうか？

僕のところは幸いにも地震の時もエレベーターは止まらず、台風の被害も窓ガラスのひび割れくらいで済みました。

以前からいろいろな生活必需品は多目に買ってあるのですが、広域な災害が起こった時のことを考えると心もとないことばかりです。いざという時のために、まずは避難所の確認など出ることから始めるつもりですが、自分はこういう備えをしているなど情報があれば教えていただきたいです。

中塔 昌宏

特集

大阪頸損 & 京都頸損
合同交流会の歴史
Part2



隣の支部である京都頸損連と 2000 年から合同行事を年一回開催。この合同交流会は 2000 年から始まり 2017 年まで 18 年間続いています。

現在ネット社会の時代で情報もある程度はわかりますが、外出で当事者同士の直接の情報交換ができる重要な企画と考えています。

今回 2 回目の特集で頸損だよりや事務局通信で掲載した記事を紹介します。

Part2 は 2008 年から 2017 年の掲載記事紹介。

また京都頸損連の平野功さんと畑本卓成さんから合同交流について語っていただいています。

この特集に興味を持った方は、ぜひ合同交流会に参加してみても！

また 2018 年に開催した合同行事も掲載しています。

[編集：岩本 泰嘉]

「京都・大阪頸損連合同交流会をふり返って」

京都頸髓損傷者連絡会 平野 功

受傷後、自ら外に出ることはおっくうになった。そんなとき同じ障害者となら安心して出かけられるものである。僕にとってそれは、玉津の自立生活訓練センターにいた頃はツインバスケットのチームであり、家に帰ってからは頸損連絡会であった。街の散策、鉄道やバスの乗車、さらには飛行機や船に乗ることもあった。

2000年に復職して仕事に追われていたときは頸損連絡会の活動にあまり関われなかったが、この合同行事には2009年から皆勤で参加している。参加者が多く、散策以外にもスポーツやカラオケや食事会など内容が多岐にわたっているのもこの合同交流会の醍醐味である。参加者の少ないときもあるが、心地よい疲れと元気をもらって帰ってくる。

2012年3月に退職してからは会の企画担当になり、合同交流会を企画する側になった。大阪からの方はもちろん、京都の方にも京都らしさを楽しんでもらえるよう、蒸気機関車館、東映太秦映画村、幕末の面影を残す伏見界隈の散策などの企画を考えてきた。去年は雨の中であったが、解説を聞きながらみんなでぞろぞろと歴史的な街並みを散策したのは印象に残っている。

久しぶりに顔を合わせ大人数で交流できる取り組みなので、普段外出しにくい方にとって出かけてみようかと思える企画にしていきたいものである。

「合同交流会について」

京都頸髓損傷者連絡会 畑本 卓成

合同交流会では京都の担当を2015年からさせてもらっています。2016年2017年の3回参加しました。2015年と2017年の京都企画には多数ご参加いただき、本当にありがとうございました。二次回までお付き合いいただき、自分の中でも近年珍しくよく遊んだ1日になりました。

合同交流会ではなかなか普段行くことがない所に行くので、こういう機会がありそれに参加できて良かったと思っています。世間の様々な施設でのバリアフリー状態を知ることができ、また新たな出会いもありますね。施設設備のバリアフリーはまだまだな所もありますが、観光者の多い京都と違い、大阪では気持ちバリアフリーで頭が下がります。

よく海外と比べて日本はどうこうと言われますが、そんなに違うものかと疑問に思いま

す。最近はそのような話題ではあまり盛り上がりませんし、近畿圏はそんなに遜色ないのではと。元気だった頃大阪で働いていたこともあって、やっぱり大阪はええな、最先端違うかなと思っています。

こんな風に色々経験していることは以前の生活からは考えられないことばかりで、まだまだ計り知れないことが沢山あります。自分は数年前に偶々大事故に遭い、頸損やその他障害は残りましたが命拾いしました。せつかなので日頃精一杯楽しくやっていきたいという思いで過ごしている中で、年1回のこの合同交流会は貴重な行事です。できるだけたくさんの方々と出会い、一緒に色んな経験を共有して今後に繋げていけるような企画を考えたいと思っています。

また、簡易型電動車いすのリチウムイオンバッテリーが公費支給を認められましたので、参加して下さる方が増えることを期待しております。

これからも皆さんご協力、そしてご参加よろしくお願いたします。



大阪・京都頸損連合同交流会「涼をもとめてニフレルへGO！」

大阪頸髄損傷者連絡会 赤尾 広明

●ランチからはじまる京都流

2018年10月14日。この時期にしては陽射しが強い快晴の下で毎年恒例となる京都頸損連との合同交流会を行いました。今年は大阪が企画担当だったので、京都のみなさんをおもてなしするためにどこでどんな交流会を催すか悩みましたが、場所は2016年秋に万博（エキスポランド）跡地にオープンしたショッピングモール等の複合施設であるららぽーと EXPOCITY 内の水族館「ニフレル」に決定。タイムスケジュールは京都流で、先にランチ交流会をしてから個々にニフレルを見学し、その後「太陽の塔」や「民族学博物館」に向かうという流れで4時間ほどのプランを計画しました

大阪のメンバーで下見をしたのは7月だったのですが、頸損には過酷な猛暑ゆえに、当日もこの暑さだったらさすがにヤバいという不安が頭の中をよぎりながら、クールダウンする日陰はどこにもない外でお弁当を食べながら交流するというプランもリスクーなので、ららぽーと内のフードコートを利用。結果的には広くて移動もしやすく、椅子やテーブルも自在に動かせるので、ほどよい交流ができました。

●生きているミュージアム

海遊館がプロデュースする「ニフレル」は水族館というより、水辺に生息する生き物をアーティスティックに展示したミュージアムという趣です。色鮮やかな明るい光で彩られた空間や深海のような暗闇の静けさの中で神秘的な姿形…いや、言い換えれば不細工で不気味な見た目、未だかつて見たこともない衝撃的で個性的な生き物が

手の届く距離で泳いでいる姿が非日常的な空間演出によって次々魅せられるので、気がつけばしばらく立ち止まって眺めてしまうほど無意識にテンション上がりますが、カピバラやカワウソ、フクロウ、ペンギン、ビーバーのような動物もいれば虫を食べる植物のような印象を持っていたハエトリグサもいて、挙句は猛獣のホワイトタイガーまで目の前で暴れまわってるんです。そんなに広くはないミュージアムですが、時間が過ぎるのはあっという間でした。



ガンダム前で集合写真

●交通アクセスは重要な課題

約30名の参加があり、ほぼ全員がニフレルを見学しましたが、日曜日でもそれほど混み合うことなくのんびりと見学できたのは幸い。水族館マニアにはたまらないレベルで、車椅子ユーザーにとってのバリアフリーも十分でした。唯一の誤算は阪急京都線の南茨木駅にある上りホーム（大阪方面）のエレベーターが7月の台風の影響で運転停止になっていたことです。阪急からの乗り換えで EXPOCITY に来られる方にはかなりのご不便をおかけしました。この原稿が掲載される頃にはもう復旧してると

と思いますが、直前に分かったので、参加者には事前にアナウンスできたのは不幸中の幸いだったかな。改めて移動手段の要となる鉄道やバスのバリアフリー情報は重要だと再認識させられます。

京都と大阪の合同交流会は行事としては

10年以上の歴史になるでしょうか。支部の連携はセルフヘルプ活動をする上でも会員に社会参加を促す意味でも効果があり、お互いの支部の活性化にもつながるので、今後も続けていきたいと思っています。みなさん、ありがとうございました。

大阪頸髄損傷者連絡会 上田 修司

天候も良く絶好の行楽日和のなか、今年も京都の皆さんとの合同交流会が吹田で行われました。集合時間に遅れてしまったので、すぐにはらぼーとのフードコートに移動し顔馴染みの方や初めて会う方と少し話をしながら昼食を楽しみました。



昼食後ははらぼーとの近くにある、水族館のような動物園ともいえるミュージアム「ニフレル」へ見学に。美しい魚たちが光の中で泳いでいたり、鳥たちが放し飼いにされていたりして、非日常的な感覚を味わうことができました。

特に体重約160kgもあるホワイトタイガーが水中へダイブする瞬間と、肉を樽にぶら下げて与えるご飯タイムの迫力は凄かったです。

その後、希望者で太陽の塔周辺を散策。塔内部の見学は事前予約制で入れませんでしたが、私としては普段あまり見る事のない塔の背面(裏側)を見る事ができたので良かったです。



約50年ほど前の時代に、このような芸術作品を生み出した岡本太郎は改めてスゴイなと感じます。刺激的でとても楽しい時間を過ごす事ができました。ありがとうございました。

京都頸髄損傷者連絡会 木村 善男

合同交流会に参加するのは久しぶり。といっても、大阪頸損の人たちはいつお会い

しても親近感がわきますね。大阪頸損のそんな雰囲気大好きです。

さて、ニフレルって何なの？から始まり、介助者たちに聞いてみると、そのほとんどが知っており、「行きたいと思っているので報告お願いします！」の声が多数。堪能してやるぞ！と意気込み、当日は7時20分に起床。家を出たのが8時30分。いざ、集合場所の109シネマズ大阪エキスポシティ（ガンダム像）前へ！集合時間の11時には少し早目に到着。京都からは私が一番乗り。早速、ガンダムとシャア専用ザクの像の前で写真を撮りまくりました（笑）。

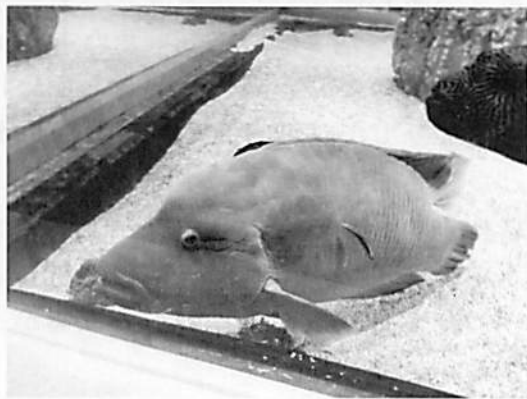


集合後、ららぽーと3階フードコートへ。あとをついていくと、なんとエレベーターを3回（M2階-M2階-2階）も乗りました。あとをついていかなかったら迷子になっていたかも（汗）。フードコートにはたくさんの店が入っており目移りしますが、事前にネットで調べた「金子半之助の江戸前天井」に決めていました。が、メニューの中に「江戸前天井」がない！？楽しみにしていたひとつでしたが、代わり海老天井を食べることに。おいしくてボリュームたっぷりだったので満足（女性にはきつい量かも）。食事も堪能したので、いざ、ニフレルへ！・・・の前に、ガンダム像の前で集合写真。一列では入りきれなかったもので、ところどころ2列に。参加人数は多ければ多いほどにぎやかで楽しいです。

そういえば、大阪万博のころは何歳だっ

た？とか、ガンダム世代？とか、そんな話題で盛り上がりました。ちなみに、私は1964年生まれ。大阪万博は6歳で幼稚園から鼓笛隊で参加したものの記憶がほとんどなし。ガンダムは多感な中学生のころで正義とは何かを悩んだ時期でもありましたね。

さて、ニフレルですが、感性に触れることをコンセプトにおいた新しい水族館で動物園なミュージアムでした。個性的な生き物が多く、いろいろと工夫も凝らしており、時間が過ぎるのも忘れてしまうほど。（終わりの集合時間に遅れてしまった言い訳になるかな（大汗））一番のお気に入りは、ホワイトタイガー、ナポレオンフィッシュ、放し飼いの動物たち、・・・ということで、全部よかったです！まあ、ニフレルに行ってみないと、この感動は伝わらないでしょう。



今回は、京都です。今回のイベントに負けないくらいの企画を練りますので、ぜひ参加をお願いします！

ブレス・トゥ・ヴォイス -Breath to Voice-

— 「息」から「声」へ —

連載 第 26 回



2007年6月9日明石において“人工呼吸器使用者の自立生活を実現するために“という市民公開講座を兵庫頸損連絡会で開催した。市民公開講座の終了後、その実行委員会が立ち上げていたメーリングリストの愛称が、“ブレス・トゥ・ヴォイス”となった。人工呼吸器使用者や高位頸髄損傷者など最重度の四肢麻痺者の自立生活を考え話し合い、情報を提供し実現していくためのメーリングリスト。ブレス・トゥ・ヴォイス (Breath to Voice) とは、息をするのもままならなかった人達が、声を上げ、大きな運動のうねりをつくっていきたいという願いから名づけられた。この市民公開講座に参加した人工呼吸器を使用する仲間は、その後何をめざし、どんな行動を取っていったのか。その後の動きを伝えていきます。

●頸損連絡会の人工呼吸器を使用するメンバー有志で、共通する課題や呼吸器当事者に有効な情報を自分たちで共有していこうと、**情報交換&交流会**を2009年から始め、これまで定期的に集まって近況報告や意見交換など行ってきました。今回、6月に大阪北部で震度6弱の地震があり、さらに7月初旬、西日本豪雨があり多数の犠牲者が出ました。この様な災害において、私達呼吸器使用者はいざという時に避難する対策が万全ではないため、命を守るための各々の考えや、この先に起こるとされる南海トラフ巨大地震規模の天災が発生した際に備えて、常日頃から取り組むべき課題や行動について特集を組みたいと考えます。

「災害について考える」

兵庫頸髄損傷者連絡会 米田 進一

皆様、ご無沙汰しておりますが、お変わりありませんか？またまた連載が滞ってしまい申し訳ありません。気が付けば、今年も早半年以上が過ぎ、常に変わらない平凡な日々を過ごしていたのですが、去る6月中旬に大阪北部を震源とする震度6弱の地震が発生しました。大阪でのこの様な大きな地震は何十年振りとなるものだったそうです。この地震により、少なくとも数名の犠牲者が出た事に心を痛めます。予期せぬ

自然の力は計り知れないものがあります。この影響により多くの人々が今も尚、避難場所での生活を余儀なくされています。私が住む明石市でも震度4でしたので、かなり大きな揺れを感じました。健常者はもちろん障がい当事者だけではなく、子供や高齢者も咄嗟に避難できるはずもなく、最悪の場合、建物の倒壊や火災等が起きてもおかしくない状況下にあることは間違いありません。

常日頃から避難対策のシミュレーションをしておく事が、とても大事だと感じています。実際にやれていない事が現状ではあります。

震災が落ち着いた後も、7月初旬に西日本を中心とした広範囲に渡る豪雨も発生し、各地方に甚大な水害が起き、200名を超す犠牲者と行方不明者が今も尚捜索されています。毎年、各地で大きな被害が発生し、ニュースも連日の様に報道されています。住む地域は違えど、地球温暖化の影響も少なからずあるのは言うまでもありません。台風20号の時に、私の住む明石市でも約5時間の停電がありました。呼吸器の内蔵バッテリーは9時間持続するので大丈夫でしたが、エアマットは沈んでしまいました。

9月4日に台風21号が近畿地方にも甚大な被害を及ぼした事、また9月6日に北海道では震度6強の地震が発生し数名の犠牲者も出ました。自然災害の規模は計りし

れません。私達は人工呼吸器を使用している身であり、尚かつ頸髄損傷であることに、急な天災が起きる事は常に想定しておくべきであり、緊急時に避難する場所や災害用グッズ等を常備する必要もあります。

一番は電源の確保、停電になると命に関わります。車いすを押せる人員確保や避難経路の確認、ラジオや飲み物、非常食等の備蓄、挙げればきりがありませんが、必要な物は沢山あります。避難先の衛生面も良いとは限りません。かなりの確率で感染症が蔓延し、避難先での褥瘡の対策をしないといけないことも命の危険が伴います。医者や看護師、医療用具、薬の不足は免れないでしょう。

自然との向き合い方を考え、いつ何時も緊張感を持ち、命を守る為の行動を念頭におき、緊急対策を考えるべきだと私は思っています。皆様も、今一度真剣に、今後の対策として考えていきましょう。

「障害者として災害の度に思うこと」

大阪頸髄損傷者連絡会 吉田 憲司

ここ近年は、災害が多く、被災地や避難所の中継を目にする事が増えました。障害者や高齢者などの社会的弱者の避難についてもよく議論されますね。もし、あの場に自分がいたらどうだろうか。そんなこともよく考えます。地震、台風、水害はもちろんのこと最近の酷暑ももう災害といっても差し支えないでしょう。

自分でできることといえば水、食料など若干の備蓄、人工呼吸器や吸引器などに使う非常用電源のバッテリーを多めに用意しておくことくらいでしょう。医者からは電源が尽きたら、救急車を呼ぶよう指示をさ

れていますが、そのような状況に至っては、果たして救急車が家まで来られる状況なのかわかりません。では、あらかじめ非難していれば良いのかとなると、そう簡単な話ではありません。

避難指示が出ても家にとどまり続ける人も多いと聞きます。「自分だけは大丈夫。」といった思い込みから来る避難しないケースもあったでしょうが足腰が弱かったり、車椅子だったり、寝たきりだったり避難自体が困難な人もいたのではないのでしょうか。

まして避難所に行ったところで健常者

ですら過酷な環境だから身体的、精神的に調子を崩される話はよく耳にします。呼吸器や排泄など管理が難しい部分は不調になりますし、持病がある方は状態が悪化するかもしれません。

身体の機能に何かしらの障害を抱えている人はそれを補うための装具や装置を必要としています。日常的に使用しているものを持ち込む事は可能なのでしょうか。かさばるもの、音のするものもあります。人工呼吸器などの作動音は耳障りで聞きなれない人からすればかなり不快なものです。痰の吸引ともなれば寝ている人を起こしてしまうくらいの音ですから多少呼吸が苦しくても吸引そのものを我慢することになりますが、いずれは痰が詰まり高圧アラームが鳴りますから吸引をせざるを得なくなります。吸引を我慢することを繰り返せば肺炎になります。

周りに気兼ねしてアラームのスイッチを切ってしまうこともあり得ることでしょう。こうなると人工呼吸器が外れても周りには気付きません。非常時の誰もが大変な時に理解を求めることは難しいものですし、

人様にご迷惑をおかけするぐらいなら、できる限りは、自宅で頑張りたいと思うのも無理のないことではないでしょうか。

一時的にでも自宅から離れること、慣れない避難所に身を寄せることには、越えがたい心理的な壁を感じてしまいます。寝たきり患者、人工呼吸器利用者、難病患者と言った人の手が必要な人たちを受け入れができ、日ごろから通いなれた施設や居心地の良いレスパイト先が身近にあれば、避難も楽なんだけどなあ、とぼやいていたら、わがまま言っていたらどこも受けてくれへんで！と叱られてしまいました。そのような環境は贅沢品なんですかね。

在宅で25年頑張ってきました。いろいろトラブルもあり何度か病院に担ぎ込まれましたがなんとかここまでこられました。家に帰るたびに良くも悪くも自分にとっての居場所はここにしかないようだと思います。自分のような重度の障害者が利用できる長期滞在と日常生活を前提とした生活の場を提供してくれる制度といった選択肢が欲しいところです。

「出来ていない避難準備」

兵庫頸髄損傷者連絡会 井上 歩

阪神淡路大震災の時には、健常者として被災したが、今は呼吸器を使用し、頸部より下は動かない。その為、移動手段はリクライニング車いすに頼っている。

車いすを使用する様になってから、一度地震を想定し、避難所となる近くの小学校まで行ってみた。自治体や消防等の訓練ではなく個人で行った。一緒に行ったのは、ヘルパーとボランティアの学生数名だ。

ヘルパーが来訪し、食事介護中、地震が起きた設定にしたかったのだが、その時は、時間の都合上出来なかった。

大きな地震では、リフター（ベッドや車いすから移乗させるための福祉機器）が使用できないかもしれない。家の家具が倒れて簡単に外へ出られないかもしれないし、車いすが使用できないかもしれない等を考えていた。この時は、敢えてリフターを使

用せず、人力で車いすに移乗させてもらった。呼吸器を車いすに積み、身体一つで避難所を目指した。

移動中でも想像力を働かせ、もし停電で信号が点いていなかったら、道沿いの家が倒壊していないか、いつも渡っている歩道橋は崩落していないか、川にかかる橋が渡れるか等、そんなことを考えながら行ってみた。学校に事前連絡をしていなかったのも、職員の方がびっくりして出てこられた。事情を話したところ、快く敷地内に入れてもらった。災害時の避難場所は、2階にある体育館だ。柔道や剣道で使う格闘技場も、場合によっては避難場所になるらしい。

帰りは、敢えて違う道を通った。行ってみて思った事は、「どうやって2階にある体育館に上がるのだろうか?」「呼吸器に使用する電源は、確保出来るのか?」「実際、自分がここに避難して良いのだろうか?」本心を言えば、ここに避難して来る事は無理だ。このところ多い地震・台風・水害・土砂災害について備えは必要だ。

普段、避難情報が伝えられ、気にかけているのは、テレビやラジオだ。避難情報が流れる時、まず一番に確認するのは、警報などが出ている地域だ。その後、警報が解除するのか、若しくは避難準備・高齢者等避難開始や避難勧告、避難指示へ移行されるのか。

避難訓練であれば、車いすを押してもらい、行くことは何とか出来た。しかし、実際に豪雨災害等を想定すると、車いすを車に積んでもらい避難する以外は考え辛い。福祉避難所の話も聞いたのだが、実際どこの管轄で、誰の指示により準備されているのか、行政に確認するのも今後の課題だ。

この時、分かりづらいのが、どのタイミングで、何処に避難開始するのか。避難所は開いているのか。本来、テレビのニュース等で避難を呼びかける時点では、すでに、避難所は開いていなければおかしいと思う。地区・地域によっては、避難所に確認の電話をしてから行って欲しいと聞くことがある。皆が一斉に電話をかけたなら、電話回線も混線し、繋がりにくくなる。結果、避難が遅れることになる。

自治体は、避難を呼びかける時には、避難受け入れ可能となった避難所の所在地・名称を知らせるべきだ。また、全ての人がインターネットやスマートフォンを持っている訳ではない。dボタンを使ったデータ放送は、正直使い辛い。地域に特化したきめ細かな情報が、使いやすい物で24時間見開きできるようにして欲しい。

僕の場合、呼吸器等を使用しているので、上記のような避難所に行くより、直接医療機関に避難するべきかもしれない。その理由としては、避難所で呼吸器を管理することが難しい。2~3時間で避難解除となるのか、もっとかかるのか、停電は有るのか等々。考えると多くの事が思い浮かぶ。仮に地域の避難所に避難しても、途中で停電になれば、呼吸器の内部バッテリーに頼らざるを得ない。これも、時間の限度がある。僕の希望を言うならば、前もって災害時に受け入れ可能な病院を数件探しておきたい。

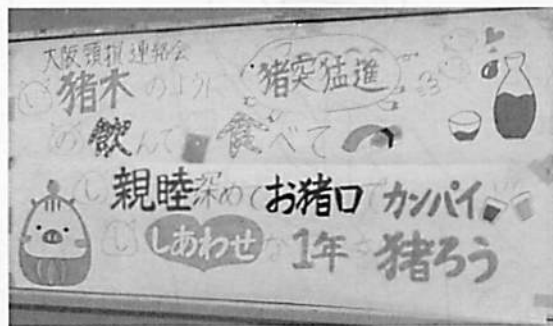
災害準備としては、個人で出来る事をするために、細かな情報が欲しい。また、行政や福祉の方々にもお願いしたい事が沢山ある。現状では、障害者目線からみて、安心できるほど避難準備が出来ているとは言えない。

大阪頸損連 新年会 @2019.01.20

昨年の10月に府立大の学生たちと、羽曳野キャンパスで顔合わせの交流会があり、新年会の準備がスタートしました。準備会は授業終了後に大学内で2回、外部会場で2回11～12月にかけておこないました。



新年会当日は早朝から冷たい雨が降っていて外出しにくいなか会員23名、会員外の当事者が6名、一般5名、介助者24名、学生ボラ19名の参加がありました、足もとの悪いなかありがとうございました。



今年は赤尾さんが年末に足を骨折!! 療養中のメッセージをお伝えした後、杉本さんの乾杯で平成最後の新年会が始まりました。

お寿司に洋風オードブル、あつあつのコーンスープにチーズやキムチのたこ焼きで寒さも吹き飛んでいきました。恒例のゲーム大会は、久々のロシアルーレットでわさび入りたこ焼きと塩クッキーを食べることに…運よく!?食べた人には豪華景品が…?

その後、平山秀夫さんがアカペラで「江州音頭」をフルコーラスで聞かせて下さいました。みんな手拍子、首拍子を取り聞き入っていました。部屋中響く声で、すごく迫力がありましたよ～!!



ビンゴ大会も豪華景品に大いに盛り上がるのと同時に久しぶりに会ったなかまと話し込む人、アロマで心身をいやす人、飲んで食べてちょっととうとする人、みんな楽しい時を過ごしてもらえたようです。



みなさんのしあわせな1年を猪って…!!
来年もまたあなたの参加を楽しみにお待ちしております。
島本 義信

大阪頸髄損傷者連絡会：杉本 真一

平成最後の新年会が1月20日に大阪市長居障害者スポーツセンターにて開催されました。

私は例年通り！？受付を担当しており、当日は11時30分から開始しました。ただ、午前中に小雨が降っていたためか、参加者の集まりが遅く、少し心配になりましたが、今年も多くの方にご参加頂きました。



また、食べ物も美味しく、特にたこやきは中身がバラエティー豊かで1年分位たらふく頂きました。舌の肥えている皆様も納得の味だったのではないのでしょうか？そして、ゲームやダンスと内容が盛り沢山で、本当に楽しい時間があったという間に過ぎてしまいました。

今年も多くの大阪府立大学作業療法士科の学生さんに忙しい中、企画の段階からご協力頂きました。本当にスムーズな準備のお陰で、無事に新年会を終えることができました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

また来年の新年会も楽しい内容にて皆さんをお待ちしておりますので、ぜひ遊びにお越し下さいね。

大阪府立大学作業療法学専攻・3回生：舩 まどか

新年会には、今年で3度目の参加となりました。初めて参加したとき、私はまだ大学1年で、頸髄損傷について知っていることがとても少なかったのですが、たくさんの方とお話しさせていただけることがただ楽しかった、ということ覚えています。そのときの班で席が近かった参加者の方は、少し緊張気味の私に話しかけて下さり、ビンゴで当たったお菓子を「よければどうぞ」と下さるなど、暖かい心遣いがうれしく印象的でした。そして今年私は3年になり代表を務めさせて頂き、あまりゆっくりお話しできなかったのですが、その方とお会いすることができたとき当時の感謝をお伝えすると、私のことを覚えて下さっていました。たくさんの学

生の中でも覚えて下さっていたことに感動し、活動を継続することと気持ちを言葉で伝えることの大切さを実感しました。このことを始めとし、3年間を通してたくさんの方とお話しさせて頂いたことは本当に貴重な経験だったと思います。この経験と思い出を大切に、今後も勉学に励んでいきたいです。ありがとうございました。



大阪府立大学作業療法学専攻・3回生：岸本 美紗

私は今回の新年会で、学生ボランティアの代表を務めさせて頂きました。至らぬ点多々ありましたが、頸損連の皆様はいつも優しく対応

して下さいました。このあたたかい環境の中で、「面倒なことほど、後に必要な力になる」ということを学びました。話し合いの事前準備など

はその典型的な例になります。面倒なことをやったとき、怠ったときでは、全く異なるものになると気づいた時、しんどくてもやり切ろうと思うことができました。

新年会当日は、頸損連の方々私の学生生活等についてお尋ねして下さい、人を想うことが

できる方がたくさんいて素敵だなと感じたと共に、私も周りの人に興味を持ち対話をしたいと思いました。代表を務める中で、ここには書ききれないほど多くの学びを得ることができました。貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。



*** **

新年会出欠ハガキ...

『近況報告、一言メッセージ』より

- 今年もよろしくお祈りします。……山川健
- 久しぶりに皆さんにお会いできるこの日を楽しみにしています...会場で……川野真寿美
- 暑くなったり寒くなったりと変な気候ですが元気に過ごしています。……久保田葵
- なかなか参加できずすみません。最近、肺炎で1週間入院しました。……横山和也
- 御盛会をお祈りしています!!……岡村英樹
- 特に変わりありません。……神尾稔
- いつも楽しみにしております。……菊川みどり
- 参加させていただきます。よろしくお祈りします。……小田和夫
- いつもおそくなってすみません……佐々木慶子
- 2018年の3月の終わり頃に退院し、今は家にいます。父も体調をくずしていることから、週3回ディサービスを利用して、長時間の外出は病院以外は難しかったんですが、ヘルパーさんが見つかったので、久しぶりの長時間の外出を楽しみにしています。皆さんに会えることも楽しみです。……川畑勲
- いつもご案内をいただきまして、ありがとうございます。盛会を祈念します。……鳥海直美

新年会に参加されてる皆さん、
あけましておめでとうございます。
いつも新年会で、「今年もこの場で皆さんと元気にお会いできることを嬉しく思います」と挨拶させていただいてるのですが、今年はやっちゃいました。
昨年末に右足首を3カ所骨折してしまいました。今は自宅で安静の身です。40代になってから左足首、左大腿骨、右足首と3度目の骨折。それぞれ原因は本来であれば打撲とか捻挫のレベルだと思うんだけど、骨折しよう症ゆえにスカスカの骨はいとも簡単にボキッと折れちゃったんです。頸損の身体ケア学習会でも以前取り上げたテーマなのですが、我ながら意識が甘かったですわ。
来月にも栄養をテーマとした学習会を行うのですが、とりあえず僕は少しでも骨が丈夫になる健康生活を送るための栄養バランスを考えなきゃいけないかな。
昨年大阪ではめずらしく自然災害が相次ぎました。頸損の私たちにとっては電気が使えないだけでも日常生活に影響が出るだけでなく、体温調節が難しくなるし、エアマット使用者は褥瘡リスクが高まります。
エレベーターが停止すれば逃げるに逃げられません。
“備えあって憂いなし”と言いますが、何をどのように備えておくべきか?改めて災害時の対処法も考えさせられるきっかけとなりました。
メッセージなのに長くなってしまいました。気持ちだけは猪突猛進の勢いながら全力前進で突き進みたいと思います。
皆さんも骨折には気をつけてくださいね。
ほんま、ちょっとぶついただけなんですけどね。
本年もどうぞよろしくお祈り致します。
赤尾 広明

赤尾さんからのメッセージ

- 先日「お伊勢さんマラソン」のバリアフリーラン（1.9km）に夫婦で参加してきました。前
りで前日から地下鉄、近鉄、帰りは近鉄、環状線、地下鉄と乗換が大変でしたが楽しい2日間
でした。……平山秀夫
- 今年も宜しくお願い致します。……松本広樹
- お働きご苦労様です。感謝します。妻と2人で伺います。よろしくお願いいたします。皆さま
とお会いできること、楽しみにしています。……内田章二
- 天体惑星撮影ははじめました。ウィルタネン彗星、撮ったぞ~!!……古林慶之
- 役員の方々、日々の活動、ありがとうございます。……宮脇淳
- すみません。大阪めっちゃ遠いんです。かんにんして下さい。……堂野崎幹生
- 毎年出席出来ず済みません。（仕事のため）……福山和寿
- いつも運営下さりありがとうございます。楽しみにしています。……松岡葉子
- 私は、後期高齢者になり、頸椎損傷になって34年目になり、ボトックス注射と訪問看護、リハ
ビリで、何とか維持しております。新年会の会報を楽しみにしています。……森下修次
- いつも会の活動をお世話下さり、ありがとうございます。そして、貴重な情報を会報でお知ら
せくださり、勉強になります。……木村佳友
- いつもれんらくありがとうございます。参加できなくてすみません。……平井一郎
- かぜをこじらせ入院しておりました。部屋の空きがなく個室になりました。その間に肺炎にな
り2週間程の入院です。個室代が大きな出費でした。大事をとって欠席致します。……和田憲一
- みな様の活躍ぶり!!障害者のためにありがとうございます。……元林千典
- すぎもっちゃん...大変ご無沙汰しています。いつも頸損だよりでご活躍を拝見しています。久々
にドリームのメンバーみんなが集まれたら良いなっと思ってます。またすぎもっちゃんのリカバ
リーポイントであるツインバスケットにも顔を出して下さいね。待ってます。……森本崇弘・未奈
- 車イスに乗る事はほとんどない生活をしてはいますが、体調を大きくくずすこともなく過ごして
います。……増井信博

***** *****

頸損連インターネットNEWS

新年を迎え寒さ厳しい1月2月が過ぎていきましたね。みなさん良い年を迎えられたでしょうか？記録的な寒波の到来やインフルエンザも大流行しました。みなさんは大丈夫でしたでしょうか？一日も早く春が訪れることを願っています。また月が替わり4月には新年度が始まり、2019年度の支部総会も行われます。ぜひ時間を作って参加してください。

●メーリングリストに投稿されたトピックを紹介します。

ここ約3ヶ月にメーリングリストに寄せられた案内、情報などを列記します。

①. UD タクシーでの車いす乗車拒否が多発していることに対し、国土交通省は11月8日付で「ユニバーサルデザインタクシーによる運送の適切な実施について」と題した通達を出しました。

②. 東京空港交通（東京・中央、増井健人社長）は車椅子のまま乗車できるエレベーター付きリムジンバスの運行を始める。12月上旬に羽田空港と都内を結ぶ路線で1日7便投入し2020年の東京五輪・パラリンピックでは国内外から高齢者や障害者が観戦に訪れるとみられ、バリアフリー対応を進める。20年春にはリフト付きを含めて対応リムジンを20台以上まで増やす予定。乗務員ら約250人を研修して、スムーズな運行・接客につなげる。乗車予約は同社の予約案内センターで受け付ける。

③. 生活保護の10月からの引き下げ問題について、「審査請求」手続の案内がありました。今回の引き下げの動きに対し、「審査請求」という手続きを行い、「直接、不服を申し立てる」取り組みについて、関係障害者団体から連絡があり資料が提供されました。

④. 電動車いすに対する無理解から、お店や交通機関、病院等、いろんな場面で差別的な対応、不適切な対応が相次いできたことから、大阪市の差別解消協議会で、市と団体が共同して、『電動車いすの啓発パンフ』を作成しました。よろしければご覧下さい。大阪市 HP にアップされています。

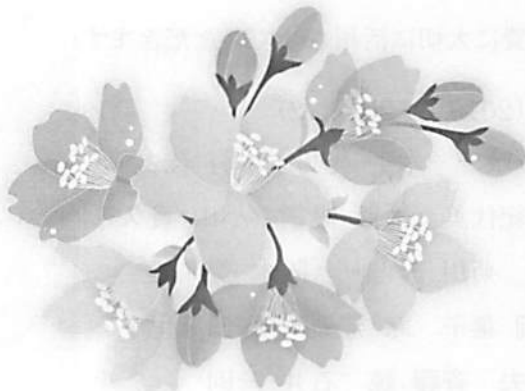
その他に、名古屋城、木造天守再建に伴うエレベーター設置を求める署名へのご協力お願いメールや ODF 主催で「JDF 障害者権利条約パラレルレポート公開フォーラム in 大阪」という企画の紹介がありました。

.....

- ・ホームページアドレスは、
大阪 <http://okeison.com/>
兵庫 <http://hkeison.net/>

メーリングリストへの参加申し込みは、本名、登録希望のメールアドレスを明記の上、info@okeison.com まで。
また、メーリングリスト、ホームページ、インターネット、コンピュータ利用に関するお問い合わせも上記メールアドレスか事務局まで。

島本 義信 yosibu.010118@gmail.com



入会案内

大阪頸髄損傷者連絡会は、大阪府及びその近郊に在住する頸髄損傷者（以下、「頸損者」と略す）及びそれに準ずる肢体不自由者の生活を明るく豊かなものにするために、日常的な、しかし最も基本的な「介助」や「移動手手段の確保」といった問題を出発点として、重度身障者がこの社会の中で、いかにすれば自立性を失わない、真に人間的な生活を送れるかについて、会員及びそれを取りまく人々と共に考え、実現することを目的としています。そして、この目的を達成する為に次の事業を行っています。

(1) 頸損者の生活条件整備のための広範な活動

- ・自治体などの要望活動
- ・街づくりや公共交通機関などの調査点
- ・生活関連情報の収集研究
- ・宿泊訓練
- ・その他学習会や交流会

(2) 機関誌の発行、必要文献の提供

- ・「頸損だより」「事務局通信」の発行
- ・ビデオや文献の貸し出し、配布

(3) 交流を深めるための集い、レクリエーション

- ・街に出よう
- ・運動会
- ・忘年会
- ・その他、見学会、交流会

(4) 他団体との交流

本会の会員は

- ・大阪府・兵庫県・奈良県に在住しておられる頸損者（正会員）
 - ・会の活動を手伝ってくださる方々（協力会員、ボランティア）
 - ・それ以外の地域在住で「頸損だより」の購読を希望する方々（購読会員）
- などで構成されています。また、本会正会員になることで自動的に全国頸髄損傷者連絡会（本部：東京）の会員になります。

入会、協力、購読を希望の方は、次のページの入会申込書（コピーも可）に御記入の上本部まで送付願います。尚、年会費（正会員、協力会員、購読会員、共に3500円）は下記の口座へ振り込んで下さるようお願いいたします。

注：（現金書留、直渡しは一切受け付けておりません）

できればあなたの写真も送付して下さい。

振込先

郵便振替口座：00940-0-091843
口座振込名義：「大阪頸損連絡会」

連絡先

事務局：〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21

ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターある内 TEL 06-6355-0114

入会申込書

年 月 日

私は大阪頸損連絡会への入会を希望いたします。

会員の種類：(正・協力・購読) 会員

(希望するものに○をする)

(ふりがな)

氏名： _____ 性別：男・女 _____

住所：〒 _____

電話番号： _____ FAX： _____

電子メールアドレス： _____

ホームページアドレス： _____

メーリングリストへの参加を希望 (する・しない) _____

以下の質問にできるだけお答え下さい。

回答内容は会報に掲載されますので、掲載を希望しない項目についてはお申し出下さい。

※個人情報 (市町村以下の住所・電話番号・生年月日・受給年金については掲載いたしません)

生年月日： _____ 年 月 日 趣味： _____

受傷年月日： _____ 年 月 日 性格： _____

受傷原因： _____ 愛読書： _____

受傷レベル：C- _____ (完全損傷・不完全損傷) 好きな歌： _____

受傷時の職業または学年： _____ 好きな著名人： _____

現在の職業または学年： _____ 尊敬する人： _____

出身病院： _____ 好きな言葉： _____

外出方法・利用交通機関： _____

今、一番したいこと： _____

今、一番楽しみなこと： _____

今、一番困っていること： _____

大阪頸損連絡会に希望すること： _____

- ・ 受給している年金の種類 (○を付けてください)

障害基礎年金・特別障害者手当・厚生年金・労災年金・無年金・その他 (_____)

- ・ 大阪頸損連絡会をどこでお知りになりましたか？

- ・ その他に、会に対して「ひとこと」ございましたらどうぞ。

- ・ 行政に対して「ひとこと」(書ききれない場合は、自前の紙に書き送付して下さい)

書人申全人

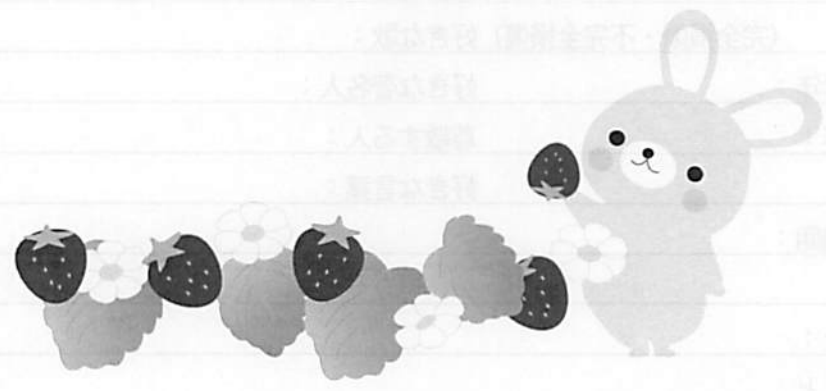
<活動日誌>

- ☆ 1月13日(日) 1月期役員会 於: CILあるる
- ☆ 1月20日(日) 新年会 於: 長居障害者SC
- ☆ 2月10日(日) 事務局通信発送 於: CILあるる
- ☆ 2月10日(日) 2月期役員会 於: CILあるる
- ☆ 2月24日(日) 身体ケア学習会 於: 阿倍野市民学習センター
- ☆ 3月 3日(日) 全国頸損代表者会議 於: 岡山国際交流センター
- ☆ 3月10日(日) 頸損だより春号発送 於: CILあるる
- ☆ 3月10日(日) 3月期役員会 於: CILあるる

<活動予定>

- ☆ 3月31日(日) 春レク 於: 西宮市
- ☆ 4月21日(日) 事務局通信発送 於: CILあるる
- ☆ 4月21日(日) 4月期役員会 於: CILあるる
- ☆ 4月28日(日) 支部総会 於: CILあるる
- ☆ 5月12日(日) 5月期役員会 於: CILあるる
- ☆ 5月18~19日(土・日) 全国総会 於: 大分県別府市
- ☆ 6月16日(日) 頸損だより夏号発送 於: CILあるる
- ☆ 6月16日(日) 6月期役員会 於: CILあるる

注: 5・6月の役員会・発送予定は変更される場合があります。



個人情報保護についての当会の方針

当会では、会員の皆様の個人情報の取り扱いにあたりましては、個人情報が個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることに鑑み、権利利益を保護するために、最善の配慮を行なっております。

『KSK頸損だより』 2019春号 (NO.149) 2019. 3. 10
 編集者: 大阪頸遊損傷者連絡会
 編集責任者: 大阪頸遊損傷者連絡会 編集部長 岩本 泰嘉
 印刷所: NPO法人 セルフ社
 〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F
 TEL 06-6719-8212 FAX 06-6719-8213
 本 部: 〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21
 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターあるる 内
 TEL06-6355-0114
 郵便振替口座: 00940-0-091843 「大阪頸遊損傷者連絡会」 頒価500円